

水生生物を採取

榎原小児童が水辺調査

日南市南郷町・榎原小(武)年生12人による水辺の調査は生真一郎校長、40人)3、4 5日、近くの榎原川であつ



た。水生生物や水の透明度を調べ、故郷に美しい川が流れていることをあらためて理解していた。

美化推進課と町総合支所の市職員2人の指導の下、児童たちは、五感を使って調査。

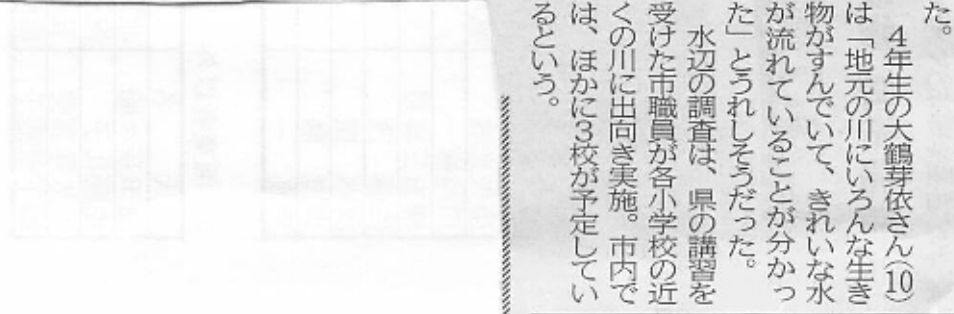
川辺の鳥や虫の鳴き声に耳を澄まし、透明なプラスチック製の透視度計を使って川の水を目視、水のおいもかいだ。また、酸素量によって水質を計る薬品を使って川の水を調べると、きれいな水を示すピンクに変わり、児童たちが歓声を上げていた。

この後、網やバケツを手に川へ入って水生生物を採取。岸辺や大きな石の下を丹念に探し、水がきれいな箇所にかすめないカゲロウやカワゲラ、ヒゲナガカワトビケラの幼虫などを捕まえた。ほかに、エビや魚も確認してい

た。4年生の大鶴芽依さん(10)は「地元の川にいろんな生き物がすんでいて、きれいな水が流れていることが分かった」とうれしそうだった。

水辺の調査は、県の講習を受けた市職員が各小学校の近くの川に出向き実施。市内では、ほかに3校が予定しているという。

榎原川で水生生物や水の透明度を調べる榎原小児童



25.7.7 「沖水川きれい」

三股町の三股橋下河川敷で3日、水辺の環境教室があった。三股小（馬場真吾校長、424人）の4年生84人が参加し、町環境水道課や都城保健所の職員から沖水川の水生生物や水質などについて教わった。

児童たちは6班に分かれ、水生生物の採取や透明度調査などに取り組んだ。川岸では石を動かし、水をすくってメガカやカワゲラ、ヘビトンボなどを見つけると「すごい」などと大はしゃぎ。簡易水質検査や透視度計を使い、良好

三股小4年生 水辺環境教室

な水質や澄んだ水であることも確認した。また、自然の音を聞いた

り、川の水のおいを確かめたりもした。倉岡桜蘭さん（10）は「初めて見た生き物もいて楽しかった。地元の川がきれいなのはうれしい。これからも川の環境を守っていきたい」と話していた。



沖水川で水生生物を探す三股小児童ら